

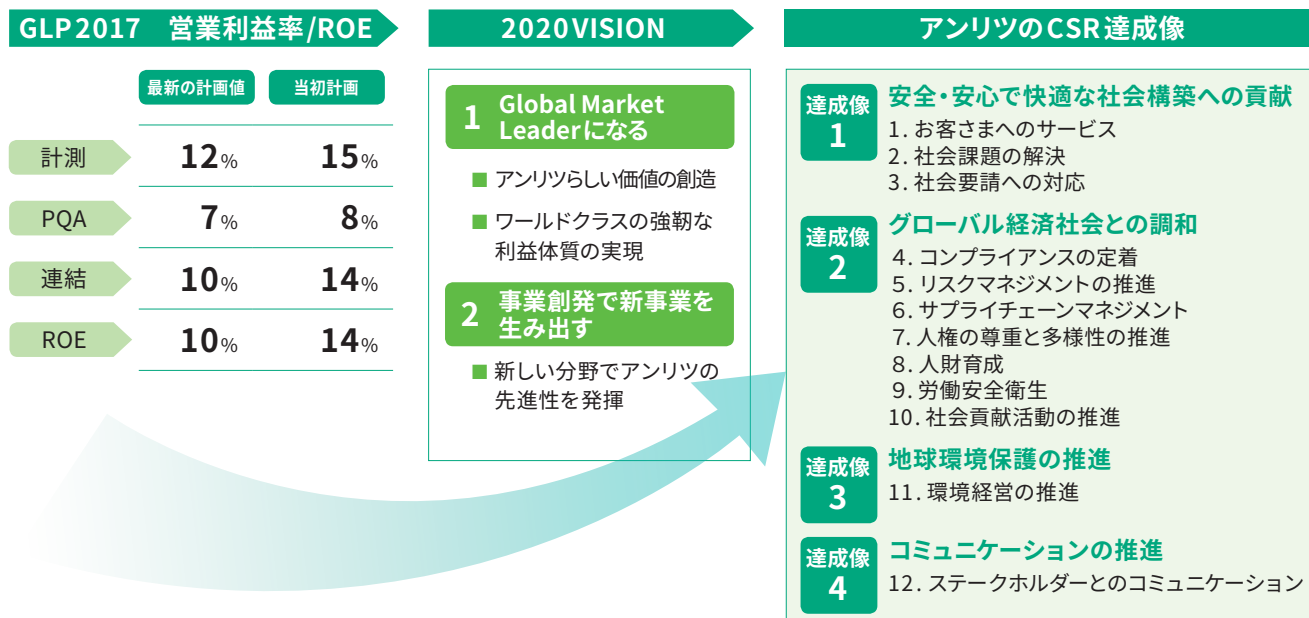
アンリツのCSR

基本的な考え方

アンリツグループは、「誠と和と意欲」を掲げた経営理念のもと、法令・倫理・社会規範の遵守をベースに、事業活動によるCSRを通して経済・社会・環境面の企業責任を果たします。また、コミュニケーションによってステークホルダーの皆さまとのより良い関係を構築し、企業価値およびブランド価値の向上を目指します。

事業戦略と連動したグローバルCSRを実践

アンリツグループは事業戦略と連動したCSR活動を推進するために、2012年度からビジネス上の戦略である中期経営計画に沿った形で、CSRの中期計画を策定し、活動しています。2015年度から2017年度までの3年間の中期経営計画である「GLP2017」および、その先にある「2020VISION」を念頭においてCSR活動を実践しています。



4つの達成像の実現に向けて

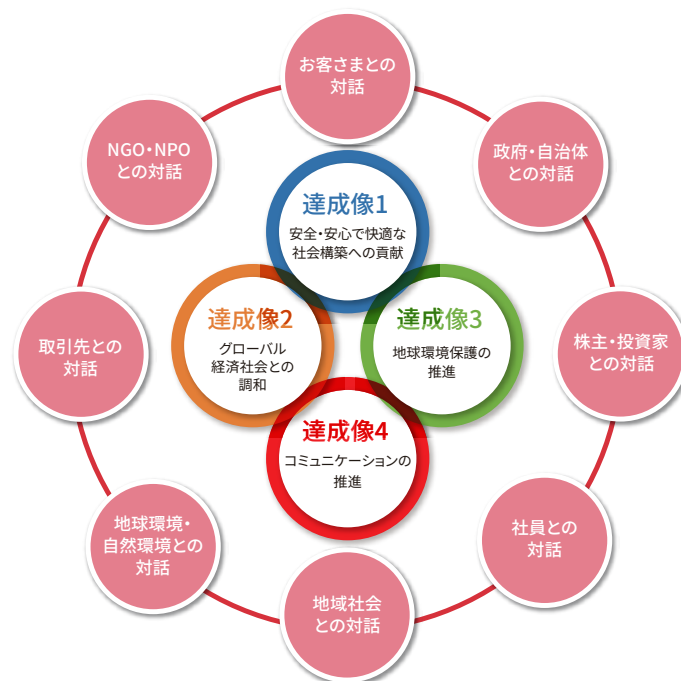
アンリツでは、私たちの活動の中長期的な達成像を見出すため、2006年に「アンリツCSR活動のあるべき姿」を描きました。ステークホルダーの皆さまとこの4つの達成像を共有し、責任を持って中期経営計画「GLP2017」および「2020VISION」に取り組むことで、その先にある「あるべき姿」の実現が確実にできると考えています。

これら達成像の策定以降、変化する事業環境や社会要請を考慮した重要課題や目標の見直しなどを随時実施し、社会の皆さまとアンリツグループの利益ある持続的成長に向けた取り組みの充実と進捗状況を含む幅広い情報開示を行っています。

アンリツを取り巻くステークホルダーと4つの達成像

アンリツグループのビジネスは、さまざまなステークホルダーとの信頼関係の上に成り立っています。私たちは、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを通じて、より良い関係を築いていくことが大切だと考えています。

また、各事業所、各部署、各役員・社員一人ひとりが、社会やステークホルダーのニーズを認識し、それぞれの日常の業務に反映していくことができるような風土づくりを進めています。



達成像 1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

アンリツの姿	アンリツは、オリジナル&ハイレベルな技術によって、皆さまの安全と安心を守るために貢献している。
社員の姿	社員一人ひとりが、お客さまの声を聞き、市場の期待を上回る品質の商品・サービスと迅速なサポートを提供している。
社会からの評価	そして、アンリツの技術に対する一定の評価をいただきつつ、アンリツブランドの信頼を築いている。

達成像 3

地球環境保護の推進

アンリツの姿	環境理念に基づき、バリューチェーン全体を通して、気候変動対策、循環型社会形成、汚染予防に取り組むグローバル環境経営が定着している。
社員の姿	社員一人ひとりが、エコマインドを高め、自身の業務に密着した環境活動を自立して実践している。
社会からの評価	そして、グローバル環境経営を推進し、地球環境保護に積極的に貢献する企業として社会から認知されている。

達成像 2

グローバル経済社会との調和

アンリツの姿	アンリツは、グローバル展開において、各地域の文化や特性と調和した事業活動を行い、サプライチェーン全体で社会的責任を果たしている。
社員の姿	社員一人ひとりが、コンプライアンスを意識し人権を尊重し、多様な属性・文化・価値観のもとで活き活きと働き、成長している。
社会からの評価	そして、地域に密着した社会貢献活動により、地域・社会との信頼関係を構築している。

達成像 4

コミュニケーションの推進

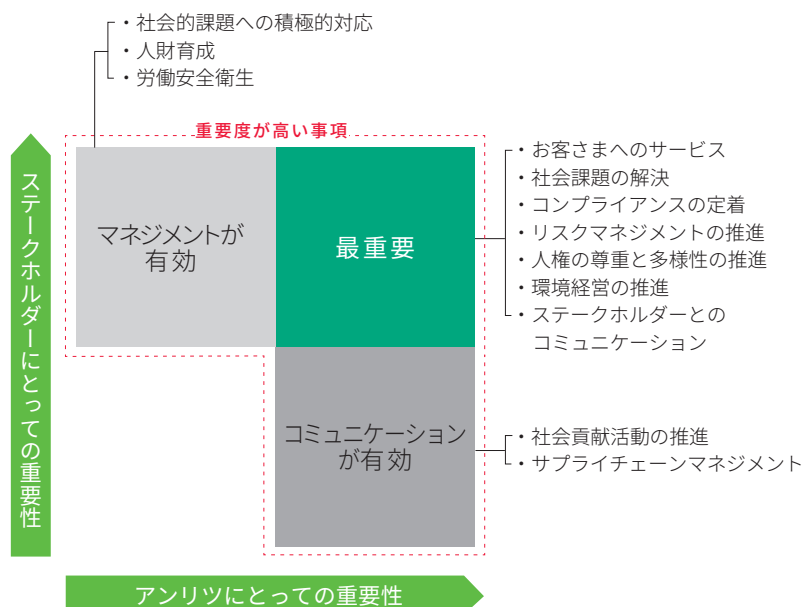
アンリツの姿	アンリツは、事業活動全体を通して、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、パートナーシップを構築している。
社員の姿	社員一人ひとりが、ステークホルダーからの期待に耳を傾け、積極的なコミュニケーションを行い、相互理解を醸成している。
社会からの評価	そして、ステークホルダーに対してアンリツの姿を正しく伝え、アンリツに対する評価と信頼を築いている。

マテリアリティ

重要性測定の手法と結果

アンリツは2008年、客観性と網羅性に配慮し、ステークホルダーごとに分類した社会から要請される142項目について、社内のキーパーソン30名へのヒアリングなどを通じて重要性測定を行いました。

この結果、142項目のうち特に重要性が高いと識別された、赤枠部分の領域にプロットされた12項目を、アンリツにとっての重要課題ととらえました。



社会の要請（ステークホルダーにとっての重要性）については、CSRのガイドラインやCSR活動の評価を目的とする調査会社、報道機関、行政機関などのアンケート調査およびお客さま企業からの「CSR調達」調査内容を参考にして毎年見直します。社内のCSRに関連する部門で横断的に組織されたCSR推進部会で見直しを行い、各部門は年度計画や中期計画の見直しへ反映しています。

▶ 選択されたCSR重要課題（GRI-G4アспект）

カテゴリー	経済	環境	社会			
サブカテゴリー			労働慣行と ディーセント・ワーク	人権	社会	製品責任
側面 (アспект)	・経済的パフォーマンス ・地域での存在感 ・調達慣行	・エネルギー ・水 ・大気への排出 ・製品およびサービス ・コンプライアンス ・サプライヤーの環境評価	・研修および教育 ・多様性と機会均等 ・サプライヤーの労働慣行評価	・非差別 ・児童労働 ・強制労働 ・サプライヤーの人権評価	・腐敗防止 ・反競争的行為 ・コンプライアンス	・顧客の安全衛生 ・製品およびサービスのラベリング ・コンプライアンス

これらの側面（アспект）を有識者ダイアログでも議論し、アンリツのCSR重要課題として新たに認識するに至りました。